

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第137号 (2023. 10. 1-2023. 10. 8)

- ◆ 参加者：丸山修平、かれん、おかもとかも、東ころ、菊池洋勝
たろりずむ、鴻鶴之志、しまねこくん、大北、燕雀之心、石川聡
水の眠り、古城、syusyū、Tomoko、蔭一郎、浸透庄、夕波ちづ、
天天雷、西脇祥貴、元さん、小沢史、まつりぺきん、チヨコミン
ト・ブル、何となく短歌、西沢葉火、Tatsuo Kanase、温 (w)、
みさきゆう、かぜみすみ、のはるん、Take、萩原アオイ、雪の
空SORA、せば、みんみん、雷(らじ)、さー、crazylover、佐竹紫
円、城水めぐみ、ばさ、汐田大輝、風を見たのは誰でしょう、
岡村知昭、石原とつき、りゆうせん、宮坂愛哲、白石ポピー、赤
端独聚勇、池田突波、ゴトー、とも、片羽anju、雲雀、風ちひろ、
ひろま、涼閑、海馬、比島アルト、梓川葉、saku、ダリア 220
透影弦、踊る六郎と手毬唄の会、しろとも、星野響、馬勝、東
ころ、奥、かすみ、ここは何処わたしは誰、みくたん、円山
すばる、石畑由紀子、岡部杏里、バキ、月波与生(七六名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- まつすぐなきゆうりを選ぶ2分間 石川聡
菊人形裂傷のごとき眼して 石畑由紀子
青蜜柑なんども生まれ変わる罰 馬勝
砂を噛む人を集めて加トちゃんペツ Tatsuo Kanase
愛情を裏返したら鯛雲 しまねこくん
熱帯や環状みたいpayしたい おかもとかも
空き瓶に見え隠れする黄の憂い 涼閑
秋の雨ビタミン剤の匂ふ尿 池田 突波
金星に行く海猫は今日決まる 岡村知昭
秋鯖の背の雲怪しき定食屋 池田 突波

痕跡は橋田壽賀子で消しておく 小沢史

醬油たらしめてあわせのふり 小沢史

ジェネリックくったり煮こむ鍋の底 かれん

猫耳は立てて夜学を受けるべし しまねこくん

秋の暁通行止めの解除待つ 雷(らい)

芝生から生える人間から芝生 丸山修平

生足の仕舞はれはじむ寒露かな syusyū

秋なのに長く寝ていたら怒られる 浸透庄

保証書 陽曝し 血管書き込む中島みゆき 西脇祥貴

東スポによれば桃から生まれたと まつりぺきん

虚無がないそれで助かる SNS チョコミント・ブルー

春まではひなあられない 西沢葉火

満月に一晚浸しひよこ豆 せば

山の上で冬の支度の話する 雷

夕焼けの丘手袋はまだいらぬ さー

悪口は排除されるの世の常よ crazy lover

秋蝶はまだ燃えている命かな 佐竹紫円

曲線の渴いた場所を確かめる 城水めぐみ

十和田湖に沈んだ十一月の遅配 汐田大輝

見えてなくとも無いわけでない月の裏側 ここは何処わた

しは誰？

あの夏というほど思い出もなく 宮坂変哲

相撲部屋には直伝の隠し味 菊池洋勝

幻想が不足していた体組成 りゅうせん

家電は皆喧し焼鯖を噛む 赤端独楽男

焉んぞ手口八丁百舌勘定 片羽雲雀

のりぴーのぴーの辺りのすきびのぴ ひうま

生まれけん初めての鞠と終わりの火 海馬

青蜜柑だった頃の想い出辛い ダリア 220

幸せにして欲しいのよ神無月 鈴 踊る六郎と手毬唄の会

宵闇や待ちきれず飯二杯食う しろとも

露草のしほむを待たず失樂園 星野響

逢引の夜にマスカラ塗り直す 東こころ

白秋に酔の物食べて 拍手喝采 みくたん

有罪か無罪か蝶になる助走 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

バツイチとバツ²の違い分からないそんなだからまた恋
してる 古城

初号機と呼ばれることになるなんて思わなかったろうな初
号機 たろりずむ

木になろう 歌声は風に託してただ鳥たちの話を聞こう み
さきゆう

背伸びしてアウトレットに来たけれど いろいろ負けて
LBSでつみあげ 水の眠り

内心は面倒な事なつたなど迷惑している秋の入り口 Take
あの人はいちと同じ構造で殻を筆ると半透明の とも

海溝の底に沈めたものがあり輪郭だけがおぼろにうかぶ
水の眠り

ピピピピピ PiTaPa に刻む日々重ねトンネルをゆく泉北高
速鉄道 古城

ひとりだけ道にまよっているみたいひらがなでふる雨にう
たれて みさきゆう

「さびしい」を因数分解する指で記憶の砂のお城を崩す
かぜみすみ

涼しげに 伊勢志摩の海 キラメイて心静かに 光眩しく

燕雀之心

おもいだすのは居酒屋の灰皿にとんとんとはねるマニ
キュア 蔭一郎

20年前は一箱280円のセイラムを吸っていたのよ Tomoko
「あいたい」と打ち込み BackSpace を押しても消えず余計
あいたい 夕波ちづ

体重が8kg減っていてスーパーモデル、明日もきつと 天
天雷

離れてく秋の匂いで風が立ちちぎれた雲が遠くに消える
元さん

ガードレール擦り傷だらけそれだけの危機を救った証左の
ように 何となく短歌

テレビ見て勝ってほしいと手を合わすその1点を もう1
点を のはるん

大切にされたいよりも大切にしたいが大きいそうこれはエ
ゴ 萩原アオイ

君くれる優しい時間真実であれと僕は毎夜夢見た 雪の空
Soseki

あどけない 智恵子が誇り 花霞 安達太良まゆみ ほんとう
の空 鴻鵠之志

恋すてふ我が名そたちて渡りける人に届けは思ふ身の俣
ばさ

このところ自由自在の「とろろ井かな」それはさておき
石原とつき

ベランダに夜更けのしめり掬ったり夢の落ち葉含んだりし
て 白石ポピー

さみしいわ 歌おうかしらね 歌をもちろんひとりで
(ゴトー心の一句) ゴトー

いつの日か連れてってねと君は言う自分で行けば?と僕は
思った 凧ちひろ

「元氣かい?」 カガミの先の友が問う 「がんばれたよ」
と鎧を落とす 比島アルト

夏が去るように正気を取り戻しすべてを無かったことにしました 梓川葉

物差しの名は「善悪」と「好き嫌い」後者が覇権をとる多数決 *sata*

満月が夏を拐っていったのだ冷たい風に頬を打たれた 透影 弦

はてしなく長い溜め息 憂鬱を眠気にさせるミルクを温める 奥かすみ

よくわからなければけれど今日はそれでいい布団が吹っ飛んでもかまわない ここは何処わたしは誰？

太陽を期待させて悪かった梯子は外せ躊躇をするな 円山すばる

◆詩

さみしいなら

さみしいと

素直に言えたら

癒えるのかもね、(温(三))

◆作品評から

あどけない 智恵子が誇り 花霞 安達太良まゆみ ほんとの空 鴻鵠之志

〜ほんとうの空、いいですね (岡部杏里)

レントゲン写真に昨夜の満月 しろとも

〜なことはないが、写り込めば骨の中の月は風流で結構見栄えがいいだろう。当然しばらく入院することになるだ

ろうが。(月波与生)

秋場所の力士で薄くなる酸素　しまねこくん

　　鯨が小魚を食へ過ぎて海洋資源が少なくなっている理論に似ている力士問題。そういうことはないと思いつつイメージとしてはそうかも…とか考えないように。(月波与生)

あの人はライチと同じ構造で殻を巻くと半透明の　とも

　　ライチは美味しいけどタネはでかいですね、ベトナム北部の名産で、春先にいっせいに道にライチ屋台が並びます。シユンは短く、あつという間。

　　買い占めて冷凍します。楊貴妃も越南から運はせたらしい。形状が似たやつにリュウガン、がありますが、あんまり美味しくないです。(バキ)